



全世代型防災教育により 地域の防災力を高める

愛媛県松山市 松山防災リーダー育成センター





愛媛県松山市にある「松山防災リーダー育成センター」（以下、センター）は、愛媛大学と松山市が連携して、全世代型防災教育を推進するために令和元年に発足。松山市内の全市民を対象に、小学生の子どもから高齢者までの世代や属性に応じた防災リーダー育成プログラムを実施しており、今回、その一環として10月20日に松山市北条地区で開催された「防災まち歩き in 北条」取材した。

「防災まち歩き in 北条」は、防災の視点で実際に地域を歩いてみて、危険箇所や安全な場所、防災設備などを記録し、メンバーで意見を出し合い防災マップにまとめ上げ、安心安全なまちづくりについて考える取り組み。参加者は小中高生を対象としたジュニア防災リーダークラブに登録する子どもたち。また、防災士の資格を持つ防災リーダークラブの大学生や、北条地区の自主防災組織、消防団員、防災士や松山市役所市民防災安全課の職員なども一緒に地域を歩き、子どもたちをサポートする。冒頭にオリエンテーションを行い、3地区5班に分かれて出発する。

河野地区を担当する班では、ため池、小学校、集会所、消防ポンプ蔵置所などを訪れた。農業用ため池では、満水時の排水設備を確認する一方、柵がないことの危険に気づいてメモを取る子もいた。続いて訪れた小学校では、応急給水拠点や資材倉庫などの備えを確認。最後に訪れた消防ポンプ蔵置所では、消防団の方の手ほどきで無線機の交信テストや、防火服を着用し消防ホースを手にとり放水態勢をとるなど、初めての経験に嬉しそうな様子だ。

午後は防災マップの作成に取り掛かる。模造紙に地図を描き、写真やコメントを貼り付け、危険箇所や安全箇所を色分けする。子どもたち同士は初対面ながら、お互いに協力しながらマップづくりを進める。河野地区を担当する班は「自分たちは、危険な場所よりも役に立つ場所に重点を置いてまとめ



ました。災害が少ないと言われているこの地域でも、実際に歩いてみると至るところに防災設備が備えられ、住民の皆さんの防災意識の高さを感じました」と発表。

参加者の一人、小学生の松原くんは「井戸のポンプを手押しすると徐々に透明な水が出るのが印象に残った。将来は消防団に入りたい」と意欲的だ。大学生の谷淵さんは「西日本豪雨の被災経験をきっかけに防災士の資格を取得し、防災リーダークラブの活動に参加している。今後はIT業界のシステム分野で、防災活動の経験を生かしていきたい」と話す。

松山市では、平成17年から一定の要件を満たす人に、防災士資格取得費用を全額公費負担とする全国初の支援を行っている。平成26年からは愛媛大学と連携し、地域住民や大学生の防災士を養成するなど、地域防災を担う人材を育成し、これまでに1万人以上が防災士資格を取得している。平成30年7月の西日本豪雨災害を契機に、様々な世代や職域に防災リーダーを育成する必要性が認識され、令和元年に愛媛大学に「松山防災リーダー育成センター」が発足し、「全世代型防災教育プログラム」をスタートさせた。

主なプログラムとして、毎年500名の防災士養成講座の開講、大学生が参加するNPO団体「防災リーダークラブ」の結成、小学生から高校生までを対象としたジュニア防災リーダークラブの発足、年間延べ約10万人の市民が参加する地域防災活動の指導者養成など、防災教育を通じた人材育成と地域づくりに取り組んでいる。

今回の「防災まち歩き」では、北条地区の自主防災組織や消防団の方々が、子どもたちの輪に入り、優しく、熱意をもって地域のことを伝えているのが印象的だった。開催前に、松山市役所市民防災安全課の竹場さんと中山さんは何度も現地を訪れ、自主防災組織や消防団の方々と打ち合わせを重ねて



きたという。

防災と地域との連携のポイントについて、センターの事業に専従する愛媛大学防災情報研究センターの中島さんは、「どんな取り組みも継続していくこと、顔が見える関係を築くことが大切」と挙げる。平成30年の西日本豪雨災害で大きな被害を受けたながら1人の犠牲者もなかった松山市高浜地区では、日頃からの防災研修の成果により地域住民同士の連携と声掛けができる関係があったという。行政と地域住民の連携についても、例えば自主防災組織からの要望に応じて行政職員が地域の会議に参加して話をするなど、日頃から信頼関係を築くことが大切だという。

また、今回の防災まち歩きのように、防災教育プログラムの中でも、「子どもたち」に焦点を当てる意義については、「将来にわたり活躍する地域防災の担い手を作ることを目標にしている」と言う。

代表的な取り組みとして、松山市立の中学1年生約4000名全員が参加する、災害時の自分や家族の避難行動を決める「マイ・タイムライン」作成授業の実施がある。授業を受けた生徒はさらに「とどけ！命のはがきプロジェクト」にも取り組み、自分の家族や大切な人に向けて授業で学んだ自然災害から命を守る大切さをはがきに書いて送る。家庭や地域で防災について考える最良の機会となっている。

こうした取り組みにより、災害時に自分自身が率先して行動できる子どもが増えていく。5年後10年後には、今後の防災まちづくりの核となる子どもたちが地域で活躍する姿が見られるに違いない。地域の防災力向上と地域の絆を深める取り組みとして、これからも注目していきたい。

【連絡先】松山防災リーダー育成センター
 メール：info@matsuyama-bltc.com
 URL：matsuyama-bltc.com/about/